

令和2年3月20日

「復興の火」が宮城県石巻市で展示されました

3月20日宮城県東松島市の航空自衛隊「松島基地」に到着した聖火は、聖火到着式の後、大会アンバサダーである石巻市出身のサンドイッチマンにより、ラッピングバスで、石巻南浜津波復興祈念公園まで運ばれ、「復興の火」として、国内で最初に展示されました。

まず、中核的施設において式典が行われ、田中復興大臣は祝辞の中で、「「復興五輪」は復興の姿や、世界中からいただいた支援への感謝を発信していく絶好の機会となると考えております。「復興の火」の展示が、「復興五輪」の第一歩として、被災された全ての方々に勇気を与え、復興を後押しする契機となりますことを祈念します。」と述べました。

一般展示は屋外で行われました。当日は風が非常に強く、ランタンから聖火皿へ火を移すのに時間を要しましたが、亀山石巻市長により無事聖火皿に点火され、約8,000人が観覧に訪れました。

(左上) 聖火を乗せ、南浜津波復興祈念公園に到着したラッピングバス(左中) 祝辞を述べる田中復興大臣(左下) 式典の様子(右上) 石巻市長による聖火皿への点火(右下) 聖火皿にともされた復興の火

